

一橋大世界史



## 24章 戦間期アジアⅡ

### 添削課題

#### 解答例

問1 孫文は軍閥が割拠する中国の統一のため、国民大衆と協調した国民革命の実現をめざした。1924年、広州で中国国民党は共産党との合作を決定し、連ソ・容共・扶助工農の三大綱領を掲げて反帝国主義運動を進めた。広州国民政府を建てた国民党は、孫文の死後、蒋介石の指導の下で1926年から北伐を開始した。国民革命軍は北上を続けたが、国民党左派と共産党を中心に成立した武漢国民政府は、蒋介石と対立を深めた。1927年4月、蒋介石は上海クーデタを起こして共産党を弾圧し、南京に国民政府を成立させた。国共合作が崩壊したことで北伐は一時中断したが、その後再開され、1928年に奉天軍閥の張作霖を降して北京を攻略し、中国統一が完成した。(297字)

問2 ヴェトナムでは、都市の知識人層を中心として民族運動が盛んになり、1925年にホー＝チ＝ミンがヴェトナム青年革命同志会を結成して反フランス運動を開始した。この組織は1930年にインドシナ共産党へと発展した。(98字)

#### 解説

#### 《中国・朝鮮の民族運動》

問1 問題文の「この革命」が何の革命なのかがわからないと手がつけられない。中国における20世紀の革命は辛亥革命が有名だが、それにしては、指定語句の三都市が辛亥革命とは関係がない。そこで、もう1つの可能性である国民革命をチョイスすることになる。

しかし、この国民革命なる用語は教科書では太字で記載されているものではない。結局のところ、この国民革命という語が国民党が進めたものであって、現在中国を支配している中国共産党にとっては強調すべき用語でないということがよくわかる。教科書における現代中国史は中国共産党の見解で著述されている。日本の教育なのだからそこまでおもねる必要はないのだが、政治的な配慮が教育にも入り込んでいる一例である。

国民革命の語を知らなくてもなんとかかなりそうだが、その場合、書き出しやどこまで書けばいいかがよくわからず、解答に迷う生徒も多いのではないか。史料の中に「広東へ馳せ参じた」「黄埔軍官学校」の用語があるため、国共合作の成立から北伐に向かうことを書けばいいことはわかるが、どこまで書けばいいのかわからないだろう。

参考解答は、「五・三〇事件」や「汪兆銘」の用語が入っていないが、別解を各自で作成してみてほしい。

問2 一見してヴェトナムについて述べればよいが、ヴェトナム青年革命同志会についての知識がないとまるで手が出ない。知識の有無が得点を左右する一問一答のような問題である。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。





会員番号	
------	--

氏名	
----	--